

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 4 9 回相模原市社会福祉審議会児童福祉専門分科会				
事務局 (担当課)		健康福祉局こども育成部こども青少年課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 8 1 1 (直通)				
開催日時		平成 2 8 年 1 0 月 7 日 (金) 午後 7 時から 9 時 5 5 分まで				
開催場所		市役所第 2 別館 3 階 第 3 委員会室				
出席者	委員	1 0 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	1 4 人 (こども育成部長、他 1 3 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開 会 2 こども育成部長あいさつ 3 議 題 (1) 次期相模原市母子保健計画の策定について (2) 民間保育所等の設置認可について (3) 児童虐待検証部会からの報告について 4 そ の 他 (1) 平成 2 7 年度子ども・子育て支援事業計画の実施状況について 5 閉 会				

主な内容は次のとおり。【 は委員の発言、 は事務局の発言】

1 開 会

2 こども育成部長あいさつ

3 議題

(1) 次期相模原市母子保健計画の策定について

資料に基づき、担当課から説明を行った。

母子保健計画と総合計画の計画期間が異なっており、母子保健計画を先行して策定することになる。母子保健計画に人口推計等がどの程度使われているか分からないが、総合計画との整合は当然必要であるため、計画途中で相違が生じた場合には見直しを行うのか。

母子保健計画は保健医療計画との整合を一番に考えており、保健医療計画が総合計画とどのように整合を図っていくかということがある。また、人口推計等についてはデータとして取り込んでいない。今後、総合計画との整合については、保健医療計画と併せてその都度、修正等を考えていきたい。

総合計画と個別計画の関係については、説明が出来るようにしてもらいたい。市民の皆さんに疑問を持たれないように注意して策定してほしい。

アンケートについては、現計画の最終評価を行うこともあり、大幅な変更は好ましくないというのは分かるが、昨今の国の施策動向を踏まえ、計画の改定を考える必要があるのではないかと思う。

(2) 民間保育所等の設置認可について

担当課より、資料に基づき、民間保育所、民間保育所の認可化移行分、幼保連携型認定こども園及び小規模保育事業所の認可について、説明し、質疑の後、了承された。

・民間保育所の設置認可

(仮称) にじいる保育園上鶴間本町の保育内容に「弊社、保育課程を指針とした」とあるが、法人で独自に保育課程を作成しているのか。

こちらの法人は、すでに神奈川県内を含めて多くの保育所を運営しており、その中で企業として保育課程を定めているものと伺っている。

この内容そのものが具体的に保育指針等に基づき行われているのか。

こちらの法人は、公募に応募され、選考委員会で審議をしているが、その中で指針に関しては、国等で提言されているものに基づいたものであるということは確認をしている。

今回の保育園には園庭はないのか。

各園とも最低基準を上回る園庭を確保していただいている。

(仮称)げんきっず城山保育園は、0歳児は57日目の8週目から受け入れとあるが、他の2園も同様なのか。

すべて生後8週目からの受け入れである。

今までは、小田急線や横浜線沿線の待機児童が多いということで、地域を指定して公募をしていたかと思うが、(仮称)げんきっず城山保育園の周辺も待機児童が多いのか。

近隣に二本松保育園があるが、4月1日の時点で保留者が多い施設になっている。津久井方面からの道路が整備されている関係で、橋本駅方向に向かう途中に預けたいというニーズがかなり増えていると考えており、広域道路の近くに施設整備をすることとした。

0歳児から2歳児まではまだまだ需要はあると思うが、3歳児から5歳児までは城山にも公立幼稚園があると思うので、この地域には小規模保育事業所ということも考えられたのではないかと思う。今回の公募では3施設の応募しかなかったのか。

今回の公募は4施設の応募があったため、選ばれなかった法人もある。橋本地域の中で橋本駅周辺はかなり整備されてきたが、二本松では不足している状況もあるため公募を行った。現状、この地域には城山幼稚園もあるが2年保育であり、小規模保育事業所と城山中央保育園、城山西部保育園は人数がいっぱいの状況であるため、0歳児、1歳児が足りない部分はあるが、合わせて3歳児の受け皿を考えた中で民間保育所が必要と判断をした。

苦情への対応について、苦情解決責任者、第三者委員が明確になっていない施設や対応のマニュアル化をしていることが明記されていない施設があるので、文章化して明確にする必要があると思う。

・民間保育所の設置認可(認可化移行分)

認可に移行するということは基準的に厳しくなると思うが、先ほど話のあった苦情への対応などの記載があまりにも粗末な内容で驚いた。この内容で認可してもよいのかと感じた。

定員に対して保育士の数が少ないように感じる。

最低基準はもちろん満たしており、それ以上の保育士を確保している。

地域でどの月齢が不足しているのかしっかり把握し、その部分の対応ができることを選考の基準にしていかなければいけないと思う。

(仮称)まあむキッズ相模大野南口については、相模大野駅周辺に小規模事業所が多数

設置されているが、小規模保育事業所の連携園の確保が難しい中で、できるだけ3歳児以降の受け入れを考えている。市としても連携園の確保は非常に重要なことだと考えている中で審査をしている。

(仮称)まあむキッズ相模大野南口では、施設長が未定で資格についても記載はないが、運営体制が未確定の段階で提案してくるのはどうなのかと思う。

認可化への移行に関しては、公募での選考委員会の審議をしていないので、市へ提出された書類で今回の審議会では審議をいただいている。認可化ということで、市では開設までに認可保育所のレベルまで十分に基準を満たせることを前提に、審査を進めている。これまで認定保育室を運営してきた中で、事故や利用者側からの苦情などはなかったのか。

こちらの園では事故等に関しては起こっていない。

それらに対する利用者の評価は取っているのか。

指導監査の監査結果や市でも定期的に現場で園の保育内容等を確認している。

保育士の人数は最低基準以上だというのは分かるが、(仮称)まあむキッズ相模大野南口では常勤が4人であるため、各年齢に常勤が配置されないという状況でいいのかと思う。仕事の仕方によって役割や責任の分担があって、パートの場合は時間で勤務になるので、全体的な責任を持つことは立場的に難しい。そういうことを考えると、やはり、たった4人の常勤と非常勤という体制では、とても心もとないと危惧する。

何歳児クラスにどのような保育士が担当するか示せば説明になると思うが、今のままでは分からないため心配になってしまうと思う。

市としても、それぞれの年齢に常勤が配置されることが望ましいという指針を持った方がいいと思うので、そのところもあわせて審議会から出た意見と同時に指導をお願いしたい。

(仮称)すずらん保育園のホームページには、認可園に移行と記載されており、来年度の利用申込み案内の一覧にも記載されている。この審議会をもっと早く開催すべきではないか。

現在、移行への準備を行っている段階なので、ホームページがそのようなことであれば、修正をさせる。今後も指導をしっかりとしていきたいと思う。

内容についてふさわしくないと思っても、条件を満たしていれば認可されるので、ふさわしくない内容については指導し、修正してから認可をすべきではないか。

審議会でもいただいた意見をしっかりと法人側に伝えて修正をさせ、市が確認をしていくことが必要だと思うので、審議会に諮る時期も含めてしっかりと対応していきたいと思っている。

この審議会に諮るということは、行政が確認をして提出しているものであるのに、このような意見がでるのはすごく恥ずかしいことである。条件を満たしているのに認可しないことになれば、係争になる可能性もあるので、審議会でも問題にならないように書類の

確認をお願いしたい。

・幼保連携型認定こども園の設置認可

教育及び保育の理念や目標からは、保育の必要な子どもを抱える家庭の現状があまり具体的にイメージされていないような印象を感じる。今までの幼稚園の感覚のような子どもを選ぶとか、教育方針によって選んでいただくというところとはかなりかけ離れた形でお子さんが入ってくるので、そのようなところで、対応しきれぬのかという危惧を感じた。

園として経験がないということで、経験豊富な保育教諭の方を外部から入っていただき、その方たちの指導を仰ぐようなことで運営をしていきたいという話を聞いている。

教育・保育を提供することについて、保育方針や保育内容に記載がないのはおかしいので、認定こども園の設置認可にあたっては、市としてしっかり確認をしていただきたい。

・小規模保育事業所の認可

保育士不足と言われているが、市としては保育士確保の対策を図っているのか。これだけ新規に設置して保育士は充足されているのか。

保育士については、東京都内などを見ても人材が不足している状況である。そのため、養成校に対して、市内の保育園への就職のお願いを保育連絡協議会等と連携をさせていただいて行っている。また、市の就職支援センターに保育士の就職の専門相談員を配置し、就職の相談などを受けている。さらに、今年度から新たに新規採用の方に対して、法人が契約する場合にその住居の家賃補助を行っている。

保育士の人材育成については、より専門性が必要であり、養成校のあり方も問われてきているところもあると思う。

養成校での人材養成と保育園での人材養成を一体的に連続して行っていかなければいけないと思っており、人材育成の部分、保育の質の確保や向上の部分も含めて市内の保育園にご協力をいただき、研究の場を設けていきたいと考えている。

保育士が不足してクラスを減らさなければいけない状況はあるのか。

保育所を設置するにあたって、相模原市ではそのようなことはない。

今回の6園については、連携園は確保されているのか。

今回の審議をいただいている6園に関しては、現状、すべてが連携園を確保できている状況ではない。5年間の猶予期間の中で市も協力をして、できるだけ速やかに連携園が確保できるようにと考えている。現状では連携園の確保ができていなくても、卒園児の方がどこにも行き場のないようなことは生じていない。今年であれば、小規模保育事業所の卒園児約97名のうち、認定こども園を含めた幼稚園に行く方が4割ぐらいいて、3歳になって幼稚園に行かれる方も多い状況である。

(3) 児童虐待検証部会からの報告について

資料に基づき、事務局から説明を行い、児童虐待検証部会の櫻井職務代理及び品川委員から報告がされた。

4 その他

(1) 平成 2 7 年度子ども・子育て支援事業計画の実施状況について

平成 2 7 年度の実施状況について、質問や意見等があれば事務局まで問い合わせさせていただくこととなった。

- ・次回の分科会については、1月頃の開催を予定し、詳細が決まり次第、通知させていただくこととした。

5 閉 会

児童福祉専門分科会 委員名簿

(平成28年10月7日)

番号	氏名	役職・推薦団体	備考	出欠席
1	はら ひろこ 原 裕子	相模原市民生委員児童委員協議会		出席
2	とつか ひであき 戸塚 英明	相模原市社会福祉協議会		出席
3	うちだ のりこ 内田 紀子	相模原市私立保育園園長会		出席
4	かわさき ひさし 川崎 永	相模原市幼稚園協会		欠席
5	ひらの ひろこ 平野 裕子	相模原市母子寡婦福祉協議会		出席
6	おおみぞ しげる 大溝 茂	桜美林大学教授	専門分科会長	出席
7	ふくだ すみこ 福田 須美子	相模女子大学名誉教授	職務代理	出席
8	さくらい なつこ 櫻井 奈津子	和泉短期大学教授		出席
9	あいざわ ゆみ 相澤 由美	相模原人権擁護委員協議会		出席
10	しながわ よういち 品川 洋一	相模原市医師会		出席
11	いしざか みちこ 石坂 美智子	相模原市立小学校長会		出席
12	あしざわ すすむ 芦沢 進	相模原市立中学校長会		欠席